

高等学校 令和8年度（2学年用）

科目 家庭総合

教科：家庭

科目：家庭総合

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

教科担当者：木谷宣子

使用教科書：（家庭総合 持続可能な未来をつくる）

教科 家庭総合

の目標：

【知識及び技能】生活を主体的に営むために必要な知識を理解し、それに係る技能を身に付けている

【思考力、判断力、表現力等】生涯を見通して、課題を設定し、解決する力を身に付けている

【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し、よりよい社会の構築や生活の向上を図るために実践している

科目 家庭総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
衣生活、食生活、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

	学習項目	学習内容（ねらい）	評価基準		
1 学期	衣生活をつくる ○人の一生と被服 ・私たちと衣生活 ・被服の機能	・人間は体温を一定に保つため、被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快適な被服気候をつくり出してきたことを理解する。	・人はなぜ被服を身につけるかという「被服の起源説」について理解している。	・被服の機能を保健的な面から考え、日常生活の中に課題を見出して解決する能力を身につけている。	・被服の起源に関心を持ち、人の暮らしと衣生活とのかかわりを明らかにすることに意欲的に取り組んでいる。
	○被服材料 ・被服の素材	・自分の身のまわりの被服がどのような繊維でつくられているかに関心を持つようにする。 ・繊維や糸の特徴を理解して、被服の選択時に役立てることができる。	・繊維→糸→織物・編物という加工過程、および繊維の種類と特徴について理解している。	・被服材料の持つ性能を家庭での衣生活に生かすことができる。	・繊維や糸の特徴を理解して、被服の選択時に役立てようとする意欲が見られる。
	○これからの衣生活 ・持続可能な衣生活	・近年の消費行動の多様化・個性化が多量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 ・衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。	・計画的な購入と、できるだけ長く被服を着用することが大切であることを理解している。	・エシカルファッションに関心を持ち、持続可能な衣生活について考察している。	・循環型衣生活に関心を持ち、現在の衣生活にその知恵をいかそうとする意欲を持っている。
	○被服製作実習	・手縫いの基礎を作品の製作を通して習得する。	・製作を楽しみ趣味を生かす基礎的・基本的な技法を身につけている。	・被服製作の意義を理解し、家族の衣生活の充実に役立てることができる。	・被服製作に関心を持ち、自分が身につける被服への理解、家族のために製作する日常着づくりに役立てることに意欲的である。

2 学 期	①私たちと食事	・食事の役割を認識し、食が心身を育むうえで大切なものであることを理解するとともに、人間の体の生理的周期を知り、なぜ朝食をきちんととる必要があるかを考える。	・食事の役割を理解し、日常の食生活で心がけるべきポイントを把握している。	・自分の食生活を振り返り、課題を見出し、見直しをはかることができる。	・日常生活と食事とのかわりについて関心を持ち、食事の働きとその重要性を理解しようとする姿勢を備えている。
	②健康に配慮した食事	・現代の食生活の実情を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。	・今の食事の摂取の仕方が将来の健康に影響をおよぼすことが理解できている。	・食情報の信頼性について、信頼できるデータにもとづき、思考・判断できる。	・食生活の現状について関心を持ち、問題点を解決しようとする姿勢が身についている。
	③食生活の変化	・PFC比率に注目し、日本は脂質のとりすぎの傾向にあることを理解する。 ・家族や仲間といっしょに食べることのメリットを理解し、食事を大切にすることができる。	・これからの食生活の向上を考えるうえでの必要な情報や知識が身についている。	・資料をもとに、食生活がどのように変化してきたかを読み取り、今後の食生活に活かすことができる。	・食生活の変化について、積極的に意見交換できる。
	④人体と栄養	・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおもな働きについて理解する。 ・食品中の成分をどのように分解し、人体の成分として利用しているか、その過程を学ぶ。	・食品を摂取し、それを利用するための消化・吸収の過程を理解している。	・消化・吸収の過程について、私たちの体の中で行われている事例で考えることができる。	・私たちの生命と健康を維持するうえで必要な栄養素について理解しようとする意欲が見られる。
	⑤食品の選択と保存	・食品表示、栄養表示を通して内容を読みとり、身体状況に応じた食品を選択できるようにする。	・食品の選択・購入にあたって、有機農産物や遺伝子組換え食品などの鑑別法、および食品表示・栄養表示を読み取る力が身についている。	・実際に食品についてマークを探して、意味を確認し、今後の食品の選択に活かすことができる。	・加工食品の表示や栄養表示に関心を持ち、日常から栄養のとり方に注意している。
	⑥何をどれだけ食べればよいか	・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。	・家庭生活での食事の意義や役割を理解し、その充実・向上のために必要な基礎的・基本的知識を身につけている。	・私たちの体をつくる「栄養素」と活動に必要な「エネルギー」との違いを考察し、食品の摂取にあたってはいずれも重要であることを認識している。	・健康を維持し生活習慣病を予防するうえで、1日にどれくらいのエネルギーと栄養をとるのが適切か、日常から関心を持ち、心がけている。
	⑦調理実習	・一人暮らしをした時に役立つ、手軽で栄養バランスの良い食事づくりを学ぶ。	・調理実習を通して、献立・調理を實踐し、日常の食生活に必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	・ライフステージに応じた食事計画のもと、健康で安全、おいしく食べやすい献立を考え、作成することができる。	・自分で献立作成・調理ができること、それを家族や知人のために役立てることに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。

3 学 期	経済生活をつくる ①契約と意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な意思決定のプロセスが、理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財・サービスの購入や消費にあたって、適切な意思決定のもと、消費者としての義務と責任を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものを買うこと、やりとりをするときは必ず契約がともなうことを認識し、消費生活を送るうえでのルールを身につけている。
	②多様化する支払方法	<ul style="list-style-type: none"> ・販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 ・消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重に行う意識と対応策を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカードやキャッシュカードの用途、取り扱い上の注意などについて習得している。 ・多重債務におちいることのないよう、自分の資産や支払い能力を把握し、返せるみこみのない借金を重ねてはならないことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のカードの利用にあたって、適切に自己管理できる方法を判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多重債務におちいるために、返済できる見込みのない借金を重ねることのないよう意識を高めている。
	③消費者問題	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の事例を通して、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 ・契約した後も、考え直して解約できる方法があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者として必要な知識と価値観を身につけ、日常生活の中で消費生活の向上をめざして工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題商法によるトラブルの原因を探り、課題を明らかにして、適切な判断により解決策をみいだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悪質業者による問題商法にはどのようなものがあるか理解し、その解決をはかるようとする態度を身につけている。
	④消費生活と地球環境	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響をおよぼしていることについて考えさせる。 ・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会に向けて各種の法令が定められていること、その理念や主旨について理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の保全のためには、生産・流通・消費・廃棄の各段階にわたって問題解決をはかることの重要性を認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で環境問題をつねに意識し、新聞記事やテレビなどマスコミの報道に関心を寄せている。